

令和 7 年度 大手ポンプ場点検・維持管理業務委託特記仕様書

第 1 章 総則

(業務の目的)

第 1 条 本業務は、本仕様書に基づいて、大手ポンプ場保守点検業務及び維持管理業務を実施することを目的とする。

(履行箇所)

第 2 条 履行場所は、以下とする。

大手ポンプ場（舞鶴市字北田辺小字元職人町 150）

(履行期間)

第 3 条 履行期間は、以下とする。

契約日の翌日から令和 8 年 3 月 31 日

(主な対象設備)

第 4 条 主な対象設備は、以下とする。

(1) 雨水ポンプ

形 式	横軸軸流水中ポンプ
台 数	3 台
口 径	1,000mm
吐 出 量	2.15m ³ /s
電 動 機	55kW

(2) ゲート

形 式	電動ラック式ローラーゲート
台 数	1 台
呑口寸法	W2,600mm×H2,400
開閉能力	150kN
電 動 機	1.2kW

(3) ゲート

形 式	電動ラック式ローラーゲート
台 数	1 台
呑口寸法	W4,000mm×H2,400
開閉能力	250kN
電 動 機	2.2kW

(4) 除塵機

形 式	引上げ式自動除塵機
台 数	1 台
水 路	W2,600mm×H3,950mm
電 動 機	除塵機 1.5kW 引上機 2.2kW

(5) 除塵機

形 式	引上げ式自動除塵機
台 数	1 台
水 路	W4,000mm×H3,950mm
電 動 機	除塵機 2.2kW 引上機 3.7kW

(6) 電気設備

雨水ポンプ盤	3 面
系統機器盤	1 面
ポンプゲート現場操作盤	1 面
除塵機現場操作盤	1 面
作業用電源盤	1 面

(7) 付属設備 1 式

(管理技術者)

第 5 条 受注者は、管理技術者を定め、本仕様書に基づき業務に関する一切の事項を処理するものとする。

(業務に必要な資格)

第 6 条 本業務に必要な資格は、別表 1 に定める資格とする。

(安全確保)

第 7 条 受注者は、業務の履行中における安全の確保をすべてに優先させ、安全確保のための必要な措置をとらなければならない。

(関係法令の遵守)

第 8 条 受注者は、業務の履行にあたり、関係する諸法令、基準等を遵守し、業務の円滑な進捗を図るとともに、諸法令等の適用・運用は受注者の責任と費用負担において行わなければならない。

(提出図書)

第 9 条 提出図書は、次のとおりとする。

(1) 着手前に提出するもの。

- (a) 業務計画書
 - (b) その他指示するもの
- (2) 完了前に提出するもの。
- (a) 業務報告書
 - (b) 業務履行写真
 - (c) その他指示するもの

(業務計画書)

第 10 条 受注者は、本業務を履行するために必要な手順等についての業務計画書を提出しなければならない。次の事項について記載すること。

- (1) 業務概要
- (2) 計画工程表
- (3) 業務実施要領
- (4) 業務組織表
- (5) 安全管理
- (6) その他

(業務報告書)

第 11 条 業務報告書は、設備・機器の現状、状況変化やデータ経過等が把握できるよう作成するものとし、次の事項について記載すること。

- (1) 業務概要
- (2) 実施工程表
- (3) 点検・整備記録（点検項目、判定、処置内容等）
- (4) 不具合箇所
- (5) 計測記録、運転記録
- (6) その他

(業務履行写真)

第 12 条 受注者は、実施した業務の履行内容等について、写真を撮影し、提出しなければならない。

(電気及び水道)

第 13 条 本業務を実施するうえで必要な電気及び水道は、大手ポンプ場内のものを無償使用できるものとする。

(第三者損害等)

第 14 条 本業務の履行中に第三者に損害等を与えた場合は、受注者の責務において誠意を持って解決すること。

(疑義等)

第 15 条 本仕様書に定める事項について疑義を生じた場合、又は本仕様書に定めのない事項については、発注者、受注者の協議によるものとする。

(守秘義務)

第 16 条 受注者は、点検等の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。

(その他)

第 17 条 本仕様書に明記されていない事項についても、本業務を実施するうえで当然必要な事項は、本業務に含むものとする。

第 2 章 点検業務

(点検業務の内容)

第 18 条 点検業務は保守点検及び臨時点検とする。

(保守点検)

第 19 条 保守点検は、ポンプ場設備の信頼性確保と機能の保全を目的として、設備各部の異常の有無、給油状態の確認及び給脂、機器の清掃及び洗浄、損傷発生の有無等の把握ならびに各部の機能確認等に主眼をおき 実施するものとする。

(保守点検の方法及び項目)

第 20 条 点検方法及び項目は別紙点検表の管理運転点検の内容とする。点検にあたり、「河川ポンプ設備点検・整備実務要領」、「下水道施設機械・電気設備保守点検基準」を参考とすること。

(保守点検の回数)

第 21 条 点検回数及び点検月は以下とする。

(1) 点検回数 6 回

(2) 点検月 7 月、8 月、9 月、10 月、12 月、2 月

※点検月は目安であり、協議により変更することができるものとする。

(臨時点検)

第 22 条 臨時点検は、受注者の運転操作員（最低 2 名）が大手ポンプ場に出動し、設備の運転操作、点検、状況報告を実施するものとする。発注者の指示により臨時点検を実施することを基本とする。

(警戒待機)

第 22 条 警戒待機とは、気象情報等から大雨等による被害が予想されるとき発注者と受注者の連絡員（1 名）が相互連絡を取れる状態とし、発注者からの指示により速やかに臨時点検を実施できる体制とする。

（安全の確保）

第 24 条 点検業務を行う際には、安全を最優先に行うこと。特に臨時点検については、災害の発生が見込まれるため、安全が確保できないと判断した場合には点検を中止し、安全な場所へ避難することとする。

（実働時間による変更）

第 25 条 臨時点検は、実働時間により精算するものとする。実働時間のうち 1 時間に満たない時間は、30 分未満は切り捨て、30 分以上は切り上げとする。

第 3 章 維持管理業務

（塵芥除去及び集積業務）

第 26 条 塵芥除去及び集積業務とは、除塵機運転後ホッパに回収された夾雑物の分別を行うものである。可燃物は舞鶴市指定ごみ袋に、不燃物はごみ種別毎に袋に詰め、場内指定場所に移動させることとする。

（堆積土砂移送業務）

第 27 条 堆積土砂の移送業務とは No.1、No.2 水路の土砂堆積により運転に支障が出るおそれがある際に水路内の土砂を移送するもの。実施回数は 2 回とし、実施時期は非出水期とする。

（情報の収集）

第 28 条 受注者は、平常時より気象情報、降雨観測記録及び河川情報等の収集に努めること。

（業務記録の作成）

第 29 条 受注者は、業務記録を作成し、提出しなければならない。

本仕様書第 6 条に係る資格は、次のいずれかとする。

- 一 学校教育法による大学の土木工学科、衛生工学科若しくはこれらに相当する課程において下水道工学に関する学科目を修めて卒業した後、又は旧大学令による大学において土木工学科若しくはこれに相当する課程を修めて卒業した後、二年以上下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設その他国土交通大臣及び環境大臣が定める施設（以下この条において「下水道等」という。）の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 二 学校教育法による大学の土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程において下水道工学に関する学科目以外の学科目を修めて卒業した後、三年以上下水道等の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 三 学校教育法による短期大学若しくは高等専門学校又は旧専門学校令による専門学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、五年以上下水道等の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 四 学校教育法による高等学校若しくは中等教育学校又は旧中等学校令による中等学校において土木科又はこれに相当する課程を修めて卒業した後、七年以上下水道等の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 五 十年以上下水道等の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有する者であること。
- 六 国土交通省令・環境省令で定めるところにより、前各号に規定する者と同等以上の知識及び技能を有すると認められる者であること。
- 七 日本下水道事業団法施行令第四条第一項の第三種技術検定に合格した者で、二年以上下水道等の維持管理に関する技術上の実務に従事した経験を有するものであること。
- 八 技術士法による第二次試験のうち国土交通大臣及び環境大臣が定める技術部門に合格した者（国土交通大臣及び環境大臣が定める選択科目を選択した者に限る。）であること。
- 九 1 級又は 2 級ポンプ施設管理技術者の資格を有する者。